

第10次中期目標の概要

強固な産業基盤を兼ね備え、自然と共生した先進的なGX産業エリアの形成を目指して
【令和8年度～令和12年度】

苦東開発の位置づけ

- 広大で平坦な土地
- 陸・海・空の優れた交通アクセス
- 豊かな自然環境
- アメニティ創出のポテンシャル



- ◇ GX・DX関連産業等の適地
- ◇ 物流・食関連産業の適地
- ◇ 森林資源利活用による脱炭素の推進
- ◇ 研究開発関連施設の誘致促進

目標の設定

強固な産業基盤を兼ね備え、自然と共生した先進的なGX産業エリアの形成を目指す。
目標期間については、カーボンニュートラルの取り組みの加速や次世代GX・DX
関連産業の展開のほか、「苦東新計画」への対応を勘案し、令和8年度（2026年度）
から令和12年度（2030年度）までの5年間とする。

目標実現の具体的方策

I 社会課題の解決に資する用地分譲等の推進【分譲目標70ha】

■ 用地分譲に係る誘致活動の推進

- ▶ 造成計画と連動した戦略的な営業活動の推進と弾力的な土地の有効活用による誘致促進
- ▶ 苦東地域の優位性を活かした成長分野等の誘致による産業クラスターの形成
- ▶ 苦東GXHUB構想実現に向けた再エネシェアリング、コーポレートPPA事業等の推進

■ 情報収集・情報発信の強化

- ▶ 苦東GXHUB構想に関する立地企業等との情報交換および積極的な情報発信
- ▶ 大学や研究機関等との連携強化、企業訪問や各種展示会への出展、立地企業と連携したPR

II 社有インフラ施設の維持管理とニーズに応じた基盤整備の推進

■ 中長期的な視点を踏まえた上下水道等社有インフラ施設の維持管理

- ▶ 上下水道施設の維持管理および増強

■ 多様化するニーズに応じた用地造成、造成手法の情報収集・検討、デベロッパー等との共同開発の検討

- ▶ 複数のエリアにおいて時代に対応した段階的な用地造成を推進
- ▶ 大規模プロジェクトの導入などに対応可能な体制等の検討（デベロッパー等との共同開発）

■ 次世代エネルギーの供給拠点の形成に向けた苦東埠頭の整備と維持管理

- ▶ アンモニア等の受入・供給施設として必要となる埠頭整備および岸壁施設の維持管理

III 自然環境の保全と活用の推進

■ 森林資源の利活用とハスカップ原種の保護・管理

- ▶ 森林施業計画を踏まえた間伐の実施による森林再生、ハスカップ原種の保護・管理

■ 安平川河道内調整地事業に係る当社所有地売却完了に向けた協力

IV 経営基盤の強化と適切な株主還元の継続

■ 産業インフラの拡充と用地造成等のための資金確保および適切な株主還元の継続

■ 人材確保と計画的な職員教育研修の実施、防災力の向上、BCPサイクルの実行



株式会社 苦東